特集1　みんなで盛り上げよう、観音寺市民ミュージカル

第２回 観音寺市民ミュージカル

観音寺版「星の王子さん」

市民ミュージカル第２弾、今回の舞台は大野原町。
星をこよなく愛するアマチュア天文家が主人公のファンタジー・ミュージカルです。

劇団四季出身のスタッフがタッグを組んだ

昨年の第１回市民ミュージカルは伊吹島が舞台の音楽劇「ウラが住んどる不思議の島」でしたが、第２回目は、大野原町を舞台に、星に対して並々ならぬ愛情を注ぐ主人公が、人間愛に目覚めたことで周りの人たちを巻き込んでいくファンタジー・ミュージカル「星の王子さん」です。横浜で公演し大好評を博した脚本を、観音寺版に特別に改編してお届けします。

今回も元劇団四季・舞台俳優の浜畑賢吉さんが演出、脚本の岡本隆生さん、音楽監督の北川潤さんも元劇団四季俳優。また、主役の王子星彦に同じく劇団四季出身のミュージカル俳優　石井雅登さん、ヒロイン役にミュージカル俳優の横岡沙季さんを迎え、オーディションで選ばれた地元の皆さんと共に本格的なミュージカルに挑戦します。なお、石井さんと横岡さんは香川県出身です。どうぞお楽しみに！

Interview

浜畑賢吉さん（劇団四季出身・舞台俳優）
石井雅登さん（劇団四季出身・ミュージカル俳優）

夢を追いかける人間の面白さを伝えたい

夢を追い続ける人は世間から厳しい目で見られることもありますが、人間として素朴で面白い。

昨年の音楽劇では、参加者が劇を通して成長し、観覧者からは「涙で最後は何も見えなかった」という声をいただきました。感動が人生で一番大切です。ぜひご覧ください。　（浜畑さん）

客席と舞台の距離の近さが魅力

自分の魅力に気づいていない不器用な主人公を演じます。市民ミュージカルの素晴らしさは、身近な人が輝いている姿をすぐ近くで見られること。また、年齢や経歴がバラバラの人たちが一つの作品を作る面白さ。香川県民の絆の深さを感じられる舞台になると思います。　（石井さん）

市民ミュージカル
「星の王子さん」
ハイスタッフホール大ホール
3月10日（日）午後２時～
全席自由
前売り1,800円　当 日2,000円
高校生以下 前売り・当日800円

あらすじ

新星を８つ発見した、47歳のアマチュア天文家 王子星彦は、ある女性に恋をしたものの、事件に巻き込まれ命を落としてしまう。天国へ行く途中で、自身が発見した小惑星の星の王子様に出会い、条件付きで地球に戻してもらえることになったが―。地上と天上を結ぶファンタジー・ミュージカル。

今回参加する市民の皆さんは約50人。毎週木曜日と日曜日に練習しています。

問 ハイスタッフホール　☎２３－３９３９

Event

市民ミュージカル「星の王子さん」応援企画

『煌く彗星』展 ～星の王子さんが眺める夜空～／『星空を眺めてみよう』開催

大野原町在住のアマチュア天文家・藤川繁久さんを紹介する企画展と、藤川さんと一緒に星空を観察するイベントをふるさと学芸館で開催します。

昨年11月８日の明け方、自身10個目となる彗星を発見した藤川さんは、50年にわたり活動を続けています。星空の魅力はもちろん、継続することで夢はかなうことを私たちに教えてくれます。

ふと見上げる夜空が、実は無限大の魅力に溢れていることを感じるまたとない機会です。ぜひ来館、参加してください。

藤川繁久さん

所 ふるさと学芸館（旧紀伊小学校）
申問 文化振興課
☎２３－３９４３
Ⓔbunka@city.kanonji.lg.jp

煌く彗星展 ～星の王子さんが眺める夜空～

入場無料

時 ２月１日（金）～28日（木）
午前９時～午後５時
※月曜日休館（月曜日が祝日の場合はその翌日が休館）

内 藤川繁久さんに関する資料を展示

星空を眺めてみよう

参加無料

時 ２月９日（土）午後７時～午後８時
（受付 午後６時30分～）
内 藤川繁久さんのお話、天体観測会
※悪天候の場合は予定を変更することがあります。
対 小、中学生とその保護者
数 70人（先着順）
受 ２月４日(月)まで。氏名・学校名・住所・連絡先を明記して左記へメール、または窓口（文化振興課・大野原中央公民館・豊浜中央公民館）で申し込み。

Column

こんにちは ふるさと学芸館です

問 ふるさと学芸館（旧紀伊小学校）
午前９時～午後５時（月曜休館）
☎０８０－２９７４－４５３１

はるかなる宇宙の果てから

３万光年ものかなたアンドロメダからやって来たスーパーヒーロー「ナショナルキッド」、遊星からやって来た宇宙人の地球での活躍を描く「遊星王子」、パールム星人の息子が怪物たちに立ち向かう「宇宙エース」、父はパルタ星人、母は地球人の少年ロビンとロボットたちが主役の「レインボー戦隊ロビン」、クリプトン星から小型ロケットで地球に送られてきた「スーパーマン」、３００万光年離れたM78星雲 光の国の宇宙警備隊員「ウルトラマン」・・・。遠い昔、地球に来た宇宙人が活躍するテレビアニメや映画に胸を躍らせていました。

反対に、地球から広大な宇宙への旅立ちの物語もありました。地球から14万８０００光年も離れたイスカンダル星へ向かった宇宙戦艦ヤマトや、各惑星が銀河鉄道で結ばれた未来世界で、星野少年が謎の美女メーテルと共にアンドロメダ星雲などを目指した銀河超特急９９９号などの壮大な宙（そら）の旅には、はるか未来の未知なる魅力を感じました。

実際に宇宙を旅したわけではありませんが、毎晩のように天体望遠鏡で広大な星空を眺め、星から星へと旅をしている人がいます。大野原町にお住まいのアマチュア天文家 藤川繁久さんです。

藤川さんは、小学校３年生のときに読んだ理科の本に掲載された一編の詩を読んで宇宙に強く魅かれ、50年にわたり星たちとの語らいを続けてきました。今日までたくさんの彗星や新星を発見していますが、昨年11月に日本人としては５年ぶりに新彗星を発見しました。

これを記念し、ふるさと学芸館では２月１日（金）から28日（木）まで「煌く彗星」と題した企画展を開催するとともに、２月９日（土）には藤川さんの講話と星を観る会を計画しています。さらに、３月に開催される市民ミュージカルは「星の王子さん」。新星をいくつも発見しているアマチュア天文家のお話で、藤川さんをヒントに、脚本を観音寺版に手直ししたそうです。

星と星とをつなぎ星座が生まれたように、星をキーワードに多くのものがつながっている奇跡を感じます。「煌く彗星」展で紹介している藤川さんの生き方や、２月９日のお話から多くのことを学び、そして夜空を見上げ、何光年も距離を経た満天の星の光を全身で感じてみませんか。どうか当日がよい天気でありますように、 星に願いを・・・。

特集2 インタビュー〝観音寺の星の王子さん〟

自分の好きなことを継続する大切さ

日本人として5年ぶり、自身10個目の新彗星（すいせい）を発見

藤川 繁久さん（大野原町井関）

アマチュア天文家の藤川さんは10個の彗星をはじめ全17個の星を発見してきた、まさに〝観音寺の星の王子さん〟。半世紀にわたる活動の原点について、お話を聞きました。

藤川さんは、平成30年11月8日午前4時45分ごろ新彗星を発見。ほぼ同時期に発見した3人の名前から「マックホルツ・藤川・岩本彗星」と名付けられました。

自身16年ぶりの新彗星発見

その日は午前2時半に起き、午前3時過ぎから、日課の写真による天体掃索を開始しました。東の低空を撮影した一枚に未知の星らしきものに気付き、国立天文台に報告。正式に新彗星と確認されました。

藤川さんの基地、天体掃索小屋

山の中腹に建つ2階建てで天井開閉式の「天体掃索小屋」は、骨組みと屋根等は鉄工所や業者にお願いして、天井や床などその他は少しずつ自分で造りました。

掃索を始めた50年前は、道端で星を見ていました。スケッチブックや星図、望遠鏡など約17キロの道具を抱えて山に登り、夜が明けたら担ぎ下ろして帰る。当時は今よりも寒かったので、冬になると10センチ以上の霜柱が立ち、こぶし大の石が凍るほどでした。夏は蚊が多く、シャツの上からでも刺されるため、雨がっぱを着て汗だくで掃索していました。

とにかく晴れた日は毎日星を見ていましたね。仕事に支障が出るので無理はしませんでしたが、テレビはほとんど見ず星ばかり見ていました。それは今も変わりません。

円の中央、２つの線が差し示す小さな星が、藤川さんが11月に発見した新彗星

原点となる理科の教科書

小学校3年生のころ、理科の教科書に描かれていたロケットの絵と詩に魅せられて、毎晩教科書を枕元に置き、詩をつぶやきながら眠っていました。遊び道具はすべて自分で作る、理科や工作が好きな子どもでしたね。

中学に入ると、昼食の弁当を飲み込むように食べ、昼休みは図書館に駆け込んで宇宙の百科事典を読んでいました。何度も読み返すうちに望遠鏡の構造が分かり、自分で望遠鏡を作って夜空を眺めていました。高校では肉眼で見えないような星を写すために、木の板とレンズを組み合わせてカメラを作り、楽しんでいました。

上）当時の理科の教科書。母が大切に保管していてくれた

左）人生を変えた本

人生を変える本との出会い

子どものころは好きなことに夢中になっていても良かったのですが、社会人になると、家族や周囲から叱られ、落ち込んだ時期がありました。当時、星が好きな人は周りに誰もいませんでした。

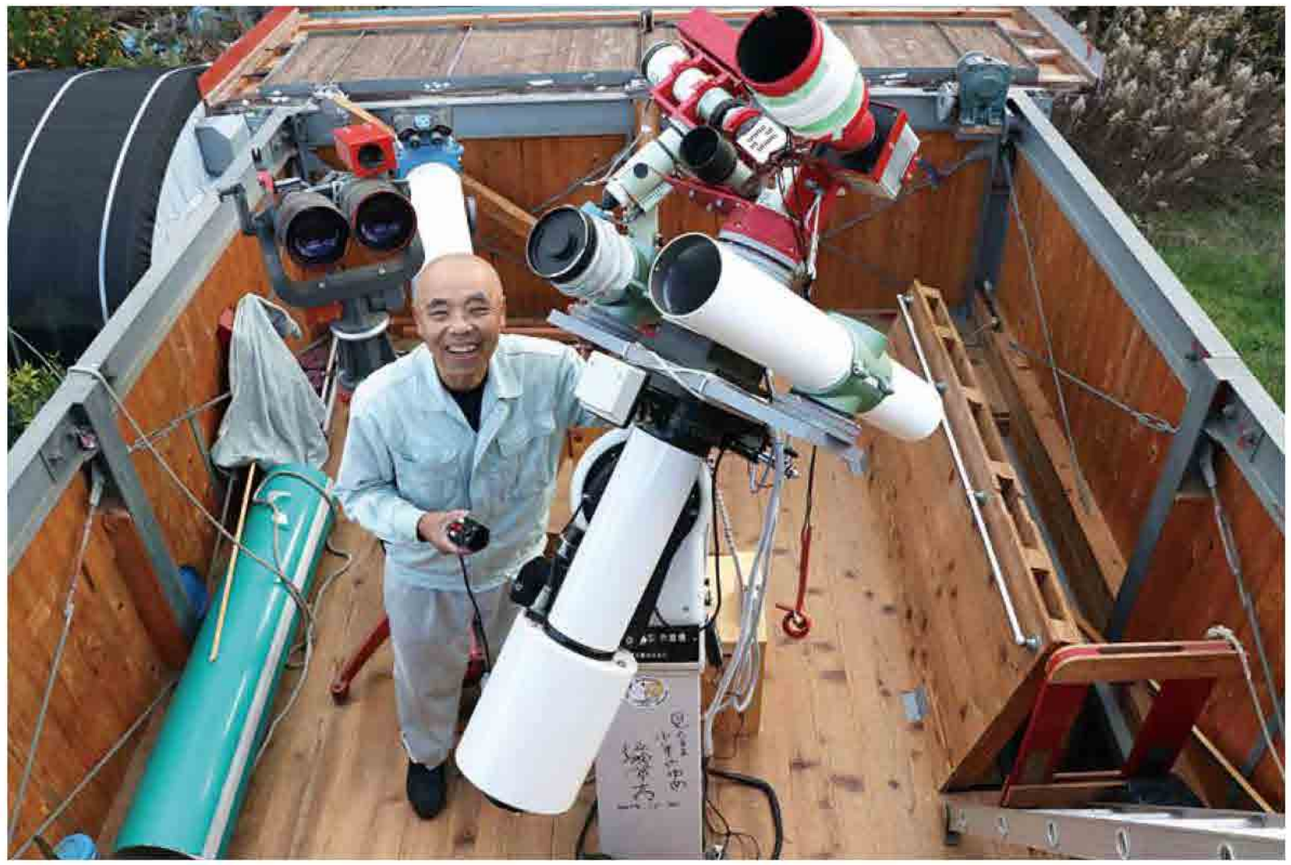
その頃に出会ったのが、アマチュア天文家の関勉さんの本です。感動し、暗記するくらい読み返しました。夢を失わず、一つの目標に向かって努力を続けることの大切さが書かれており、この本を読んで星探しをしようと決めました。ただ、星など見つかるはずはない、人生の目標として歩んでいけたらという気持ちで、まさか半世紀続くなんて思ってもいませんでした。

結果を求めない

彗星に自分の名前が付くことにはあまり関心はありません。それよりも、自分の活動が自然科学の普及と発展にわずかでも貢献できることに、男の夢と希望とロマンを感じます。

長年続けるうちに知り合った全国の天文仲間は、みんな三度の飯より星が好きで、「星っておもしろいね」といつも話しています。自分にとって「楽しい・おもしろい・無我夢中」になれることを見つけ、努力し続けるその過程を楽しむことが大切です。結果を求めては長続きしません。

私は今でも、夜になるのが待ち遠しいです。これからも楽しみながら天体掃索を続けていきます。



上）手作りのこの望遠鏡でこれまでに４つの星を発見した。「望遠鏡は、物言わぬ相棒」
右）ミカン畑の中に建つ天体掃索小屋。手前の望遠鏡の架台には、市民ミュージカルの演出家・浜畑賢吉さんのサインが（〝見えるよ少年のゆめ〟）

藤川さんがラジオ生出演

2月15日(金)
午後３時45分ごろ～
ＲＮＣ西日本放送ラジオ
１４４９kHz
番組名
「みんな～こんな～観音寺」

※「天体捜索」について、天文学の世界では夜空を掃くように探すことから、「掃索」という字を使用することがあり、本文中では、特別に「掃索」と表記しています。